

未評価 イネ科

ヒメカミザサ *Sasa stenophylla* Koidz. subsp. *tobagenzoana* (Koidz.) Sad. Suzuki

- 【選定根拠】 確認されず現状不明である。
 【形態】 枝は1節から常に1本。肩毛は全面粗洪。稈鞘の葉片は次第にとがり、稈鞘は枝が出る時稈の節間より離れて枝の基部を固く巻く。節は隆起し、葉は稈や枝の先に5～9枚つく。稈の高さは1～2m。稈鞘・葉の下面・葉鞘は無毛。
 【分布】 本州北部から西南部の太平洋側及び四国。
 【県内の分布、生育状況】 福島県植物誌(1987)に福島市土湯が記載されているが現状不明。

未評価 イネ科

タキザワザサ *Sasa takizawana* Makino et Uchida

- 【選定根拠】 確認されず現状不明である。
 【形態】 枝は1節から常に1本。肩毛は全面粗洪。稈鞘の葉片は次第にとがり、稈鞘は枝が出る時稈の節間より離れて枝の基部を固く巻く。節は隆起し、葉は稈や枝の先に5～9枚つく。稈の高さ1～2m。稈鞘に開出長毛と逆細毛が混生し、葉の下面に軟毛がある。
 【分布】 北海道南部と本州の太平洋側及び四国。
 【県内の分布、生育状況】 福島県植物誌(1987)に郡山市額取山の記載があるが、その後確認されず現状不明である。

未評価 カヤツリグサ科

イトテンツキ *Bulbostylis densa* (Wall.) Hand. -Mazz. var. *capitata* (Miq.) Ohwi 全国カテゴリー；絶滅危惧類

- 【選定根拠】 確認されず現状不明である。
 【形態】 草高5～15cm、茎は糸状。葉も糸状、茎より短い。8～10月、茎頂に頭状に小穂をつける。小穂は長さ3～4mm。イトハナビテンツキに似るが、花序に散柄がない点で異なる。一年草。
 【分布】 本州(中部以南)、四国、九州、琉球に分布する。
 【県内の分布、生育状況】 福島県植物誌(1987)に郡山市水門町が記載されているが、その後確認されず現状不明である。
 【主要文献】
 福島県植物誌編さん委員会．1987．福島県植物誌．481pp．福島県植物誌編さん委員会．いわき．

未評価 カヤツリグサ科

ヒロハノオオタマツリスゲ *Carex filipes* Franch. et Sav. var. *arakiana* Ohwi

- 【選定根拠】 確認されず現状不明である。
 【形態】 山地の林床に生える多年草で、根茎は叢生する。基部は褐色か紫褐色で細裂する。全株壮年で高さ30～50cm、葉は幅8～12mm、小穂は3～4個、頂小穂は雄性で、柱状線形。側小穂は雌性で線形、長さ1～2.5cm、普通4～6花をつける。果胞は紡錘状卵形、長さ5～7mm、多数の脈があり、上部は収縮し細柱状の長嘴になる。口辺は2裂、柱頭は3個、5～6月に熟す。
 【分布】 長野、京都、広島で知られている。日本特産。
 【県内の分布、生育状況】 檜枝岐村の実川の中流域で採取されたが、その後確認されず現状不明である。
 【主要文献】
 秋山茂雄．1955．極東亜産スゲ属植物．北海道大学．

未評価 カヤツリグサ科

ヒエスゲ *Carex longerostrata* C. A. Mey. var. *longerostrata*

- 【選定根拠】 確認されず現状不明である。
 【形態】 山地の林床、草原、湿地の縁などに生える多年草。根茎は叢生、高さ20～40cm、基部は繊維状に細裂する。葉は幅2～3mm、小穂は2個つき、頂小穂は雄性で1cm、下方に雌小穂が離れてつき短い柄がある。果胞は鱗片より超出し、斜に開出する。黄緑色で短小毛を疎につけ卵円形で長さ7～8mm、上部は急に狭まり長嘴になる。口部は深く2裂する。柱頭3個、5～6月に熟す。
 【分布】 神奈川、愛知、岡山、福岡、佐賀、熊本、大分、宮崎で生育、埼玉、静岡、山梨、鹿児島。沖縄では現状不明。
 【県内の分布、生育状況】 一年草で郡山市の生息は不明である。調査期間中には確認されず現状不明である。

未評価 カヤツリグサ科

ヤラメスゲ *Carex lynchbyei* Hornem.

- 【選定根拠】 確認されず現状不明である。
 【形態】 海岸の湿地、河川の水辺に群生する。根茎に太い匍枝を生ずる。基部の鞘は赤色から赤紫色、系網に分裂する。高さ30～100cm。小穂は上方1～3個は雄性、下方の2～3個は雌性でときに頂上部は雄花がつき、長柄があって下垂し円柱状で長さ2～6cm、褐色を帯びた鱗片がある。果胞は楕円形、長さ3～3.5mmで灰色。光沢なく短い嘴になる。脈ははっきりしない。柱頭2個、7～8月に熟す。
 【分布】 北海道、本州北中部、国外では朝鮮、中国、樺太、千島、ロシア北東部に分布する。
 【県内の分布、生育状況】 三春町の草原で自生をみているが、最近では確認されず現状不明である。